

ライフケアガーデン湘南

症 例 概 要 利用者：90代 女性 要介護1

利用期間：令和1年9月～令和5年4月現在

主疾患：環推骨折、軸推骨折、高血圧、認知症、骨粗鬆症、白内障

経過：令和1年5下旬に自宅で転倒しA医療センター受診、環推骨折と軸推骨折にて入院となる。6月下旬B病院に転院するも在宅復帰は難しく、9月上旬当施設に入居となる。居室内は物で散らかり、認知症であるご自身では片付ける事ができず、それが原因で転倒を繰り返していた。骨粗鬆症で骨折のリスクも高い為、居室内環境の改善を目指した事例。

内 容

認知症が原因で入居当初より収集癖や物を片付ける事ができないといった様子が見られていた。居室環境は日を追う毎に悪化していったが、職員が片付けようとする声声を荒げて怒ってしまう事もあり、介入する事は難しい状況だった。物忘れの症状は見られていたが、日常生活を送る上で大きな問題になるような事はなく、他入居者さんとも仲良く過ごされていたが、物に対する執着といった症状は強く現れていた。

その為、ご本人が食事や入浴で居室を離れている間に介護アシスタントが清掃を行ったり、介護職員や看護師が古新聞や雑誌、使用済みのおしぼり等を処分するといった形で清潔を保っていた。

令和4年1月から半年間で夜間帯に3回転倒インシデントが発生した。ADLの低下や眠前薬服用といった原因は考えられたが、居室内が散らかっていた事が最も大きな要因である事は明らかだった。11月からは日中にも転倒インシデントが発生するようになり、フットセンサー設置等の対策を講じたが、早急に居室内の整備を行う必要性を全職員が感じていた。

そこで職員から積極的に訪室し、コミュニケーション機会を増やす事で信頼関係の構築を図った。ユマニチュードを用いて徐々に関係性も深まり、片付けの話をして不穏になる事はなくなっていった。ご本人をうまく巻き込みながら片付けができるようになってくると綺麗になった居室に満足され、ご自身から率先して散らかっているゴミを片付けるようになった。

同時に、慶育訪問看護STと連携を図りながら、滑りやすい畳や動線を狭めていたソファや椅子を撤去し、レイアウト変更を行う事で居室環境は大幅に改善した。その結果転倒インシデントも次第に減少し、安全な生活を送る事ができるようになり、笑顔も多くなった。

今後ご本人の気持ちに寄り添いつつ、チームアプローチをする事でライフケアガーデン湘南の理念である心地よい生活環境の提供の実現を目指していく。